

22.河内名所図会を訪ねて その十六 大和川築留(剣先船④)

9. 渡し船

挿絵「大和川築留」をよく見ると、剣先船の前方を横切る小船に気付きます。人を乗せ、竿をさした小船は、堤の坂道を降りたところから船出したようですが、何の船でしょう。

『大和川筋図巻』は左岸の船橋村に「船乗場」、右岸の柏原村枝郷に「船着場」を書いています。また、享保 16 年(1731) 船橋村の松永家文書『石川・大和川の川筋渡し船書上』は「大和川筋 高野道 舟渡 河州志紀郡舟橋村」と記し、文化 9 年(1813)の船橋村住居見取図は「舟渡」と添え書きした家屋を 2 軒描いています。小船は東高野街道をつないだ渡し船でした。



築留『大和川筋図巻』



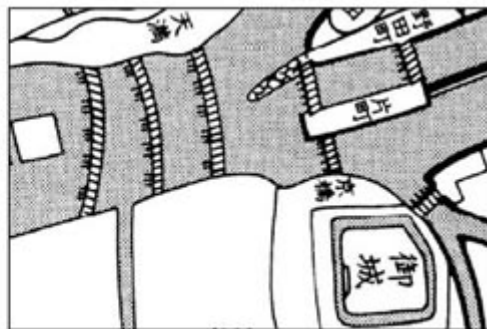
石川合流部『河摂水脈の図』

10. 東高野街道の大和川渡河

それでは、付け替え前の東高野街道は、どのように大和川を渡ったのか。『河摂水脈の図』は新大和川を墨引きしていることから、宝永元年(1704)作成とされます。石川との合流点から少し下流に、橋板を並べただけのような構造物を描いていますが、大阪市中に架かる橋はどれも橋脚をしっかり描いています。普通の橋ではなさそうです。



古大和川の渡河地点『河摂水脈の図』



大阪市中の橋『河摂水脈の図』

ほぼ同時代の資料である元禄 2 年(1689)の紀行文『南遊記事』は、「国府の下は川はゞ広き故、橋長し。橋のはゞ一丈余、長さ三町ばかり、水あさしといへども危くしてわたりにくし」と記しています。国府に「コワ」>と振り仮名が付いているのですが、前後の文章の流れから国府、国分どちらにも読めて迷います。柏原市史は、奈良街道をつなぐため国分村と高井田村をつなぐ国豊橋の辺りに紀行文の橋が架かっていたが、その後船渡しに変わったと記しています。ただ、紀行文は橋を描写した文章の前に「石河川は…道明寺の北、国府の下にて大和川と一になる」と書い

ているので、著者の貝原益軒は国府(国)の位置を正しく認識していたと思います。『河摂水脈の図』と重ねると、紀行文の橋は国府(国)の下流に架かっていたと考えることもできそうです。

橋の長さ「三町ばかり」(約 330m)とありますが、新大和川の「川幅百間」(約 180m)が両岸堤間の距離だったことを考えると、「三町」は流路幅としては大き過ぎます。河川敷も含んだ長さでしょう。とすれば、船橋(*1)や筏橋は考え難い。「危くしてわたりにくし」からイメージするのは欄干がなく、歩くと揺れそうな、こんにゃく橋(*2)でしょうか。

『河摂水脈の図』の橋はいつから架かっていたのか。公儀橋でもない限り、橋を建造、維持するには社会の安定と、民力の充実、地域の協力が欠かせません。例えば、中高野街道をつなぐため、新大和川に筏橋を架けたいと提出された安永5年(1776)の嘆願書は、左岸の13ヶ村が嘆願し、29ヶ村が連印する広域の運動でした。17世紀前半までの柏原は洪水被害で疲弊していたので、橋を架けるゆとりは無かったでしょう。柏原船の運営が順調に推移し地域の民力が回復する17世紀後半ではないでしょうか。とすれば、大和川付替えまでの限られた期間の橋ということになります。

興味深いのは、万葉集に歌われた河内大橋の推定地(*3)が、江戸時代の橋の場所とほぼ重なることです。両者の一致は、古代から近世まで、柏原・船橋地区が大和川の主要な渡河地点であり続けたことを示しています。東西の道(竜田道～渋河道)と南北の道(高野道)が交差し、石川合流後の大和川を1回渡るだけでさまざまな地域と往来できる、恵まれた地理条件がその理由でしょう。

船橋という地名の由来について、『大阪府全志』は「傳へいふ、同郡柏原村と一村たりしも、後分れて両村となれりと、村名は往時渡津のありしより起りしものならん」。『藤井寺市史』は常設の船橋には否定的で、「恐らく、折々大和川の渡河に際して船橋を設けたことに因む地名であろうが…」と記しています。ただ、残念ながら地元には伝承は残っていないそうです。

(2021.9 古川)

*1 正保国絵図(1644)に「舟橋村」が載っているので、『河摂水脈の図』の橋が船橋だったとしても、地名由来とは別の話。

*2 簡便な橋の通称で、歩くとぐにゃぐにゃするのが呼び名の由来。

このような橋か？ 参考:Web 版『堺大観』「大和川」

https://www.lib-sakai.jp/kyoudo/sakai_taikan/sakaiTaikan_30.htm

*3 柏原市 HP「河内大橋」

http://www.city.kashiwara.osaka.jp/docs/2018121400027/?doc_id=9929

資料 21 松永明『松永白洲記念館の先祖について』2011 年

資料 22 松原市民ふるさとぴあプラザ『企画展 大和川付替えと推進』2021 年

資料 23 井上正雄『大阪府全志 巻之四』1922 年

資料 24 『藤井寺市史 第 10 巻』1993 年